

令和7年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

高校・大学生の体験活動支援の推進事業 自主企画事業支援プロジェクト

## パワー全開☆なぞときっずキャンプ

令和7年11月22日(土)・23日(日・祝) | 泊2日



### ○目的

#### □自主企画事業のねらい

法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら成長していくための一助となることを目的とする。

#### □企画ボランティアが企画した事業のねらい

子供たちが探偵になりきって、仲間と協力しながら活動することで、これからの社会で求められる課題解決力を養う。さらに、活動を通じて得た気付きや学びを深め、挑戦する姿勢と自信を育む。

### ○参加者

#### □法人ボランティア

企画・運営 : 2名 (男性1名 女性1名 内訳: 大学2年生2名)

当日サポート: 9名 (男性1名 女性8名 内訳: 社会人2名 大学4年生2名

大学3年生1名 大学2年生1名 大学1年生1名 高校1年生2名)

#### □参加者 (対象: 小学1~3年生) ◆申込み104名

小学生23名 (男子12名 女子11名 内訳: 1年生8名 2年生8名 3年生7名)

### ○本事業の仕組み

当所で活動している法人ボランティア2名が企画ボランティアとなり、事業のねらいを設定し、そのねらいを達成するための活動プログラム及び2日間の事業の流れを話し合い決定した。

### ○当日までの流れ

6月上旬 企画ボランティア決定

7月下旬 企画ボランティアと担当職員の打合せ開始

以後随時 企画ボランティアと担当職員の進捗状況確認

9月下旬 事業企画書作成及び開催要項・チラシを作成

10月13日 事前研修 (ボランティア8名)

10月中旬 チラシ発注・広報開始

11月上旬 参加者決定・参加案内送付

11月4日 企画ボランティアによる職員への事業細案の説明 (オンライン)

11月21日 来所しての事前準備

事業前日 集合・最終準備

※上記以外にも企画ボランティアで打合せを行いながら準備を進めた。

### ○事業当日の運営及び日程

企画ボランティアの他に、参加者のサポート役のボランティアも運営に携わった。応募者が非常に多く、当初の予定より参加者を増やして事業を行った。また、対象年齢が小学1~3年生の低学年だったため、様々な事態を想定しながら打合せを行い、各自臨機応変に対応したり、ボランティア同士、ボランティアと職員が連携をとったりすることで円滑に事業が遂行することができた。

**日程**

11月 22日(土)

9:45	10:00	10:20	11:00	12:00	14:30	17:20	18:30	19:30	21:00
うけつけ かいし	はじまりの会	なぞとき ウォームアップ	たんてい バッジ作り	おひる ごはん	たんてい がっこう	よるごはん	たんていたちの まちあわせ	おふろ	おやすみ

11月 23日(日・祝)

6:30	7:00	7:30	10:00	12:00	13:20	15:00
おはよう	あさの つどい	たんてい ごはん	たんてい チャレンジ	おひる ごはん	たんてい ファイナル	終わりの会

**○当日の様子 (参加者)**



なぞときウォームアップ



たんていバッジ作り



たんていがっこう



ゆうべのつどい



たんていのまちあわせ



たんていごはん



たんていチャレンジ



たんていファイナル



終わりの会

○ボランティアの活動及び成果物

□事前研修



企画練習①  
ホットサンド作り



企画練習② バッジ作り



企画相談 アイスブレイク等

□成果物及び準備物



たんでいノート



しおり



ボランティア紹介 (事前にInstagramに投稿)



たんでいがっこう資料



空き時間に「謎解き」に関する本を設置



たんでいファイナル資料

## ○事業を終えて

### 《企画ボランティアの感想》

- ・自分の得意や不得意を見つけられただけでなく、自分の新たな能力を見つけられた。自己理解のきっかけになったと共に、できること、できないことに良し悪しはないということにも気づくことができた。
- ・中央では実施する機会が少ない低学年対象のキャンプであり、経験していないことにあえてチャレンジできたことは大きな自信になり、貴重な経験となった。
- ・いつまでに何をしなければいけないというような To Do リストを作成すべきだった。
- ・ボランティア同士が、遠慮し合わないで思ったことを伝えられる関係性の構築・環境づくりをもっと改善しなければいけない。

### 《成果と課題》

#### ○アンケート結果

参加者の各活動プログラムの満足度（5段階評価、小学校低学年のため「楽しさ」で評価を確認）  
（回答 23 名 回答率 100%）（単位：%）

	とても楽しかった・楽しかった	ふつう	あまり楽しくなかった・楽しくなかった
なぞときウォームアップ	79	13	8
たんていバッジ作り	96	4	0
たんていがっこう	87	9	4
たんていたちのまちあわせ	78	9	13
たんていごはん	96	0	4
たんていチャレンジ	96	4	0
たんていファイナル	96	0	4

保護者の事後アンケート（回答 23 名 回答率 100%）（単位：%）

事業の満足度：満足	100
本事業にお子様を参加させてよかった	100

#### ○成果

- ・企画運営ボランティアは、小学1～3年生を対象にした低学年キャンプを開催することに不安が多かったが、参加者・保護者の反応は非常に良く、ボランティアにとって大きな自信となった。
- ・参加ボランティアがベテラン・中堅・若手とバランスが良く構成されたため、それぞれの良さを発揮し、臨機応変な対応ができたため、事業運営がスムーズにいった。また、ボランティア人数が11名で運営できたため、保護者からも「安全管理体制に安心感を持てた」という感想をいただいた。
- ・支援学級のお子様に参加されたが、班に2名のボランティアを付けたり、班編成を考えたりすることで大きな問題なく過ごすことができた。
- ・応募者数が100名を超えた。そのため、低学年キャンプの需要の高さが分かった。

#### ○課題

- ・企画ボランティアは、参加者をより良い事業にしようと、多くの資料を作成したり、ストーリーを考えたりした。構成が複雑になると、運営側の情報共有不足や参加者への伝わりにくさなどの課題が出る。計画的に準備を進めていく必要がある。
- ・低学年を対象にした事業は少ないので、今回出た課題をデータとして保存することで他事業につなげる。